

北信州植樹祭 第六十七回全国植樹祭県民植樹

「北信署」五月二十一日、北信地域における健全な森林づくりと、緑豊かな環境整備を進め、うるおいのある郷土づくりを推進するため「北信州植樹祭」が飯山市の花公園と上野の森で北信地方事務所管内のみどりの少年団、各市町村議会、関係機関の招待者約六〇〇名と当署職員も参加して盛大に開催されました。

式典では北信州林業賞の表彰があり、「上野の森の会」と「犬飼福島森林保護組合」の二団体が受賞されました。先人より受け継がれてきた山林で、環境整備や林内作業を行い北信州の林業振興に大きく寄与したことが高く評価されました。



北信州造林戦隊ウエルンジャーによる植樹説明

みどりの少年団の活動報告では、地元七つの小学校を代表して「飯山市立秋津小学校」六年生が日ごろの活動をパネル



「上野の森」植樹風景

で大変分かり易く紹介し、誓いの言葉を述べると会場からは大きな拍手がおきました。

式典終了後、植樹会場に移動し、ヤエベニシダレザクラ、ヤブツバキ、サザンカ、アジサイ、マユミなど約七〇〇本を植栽しました。

今回植樹会場となった菜の花公園は六年前にも北信州植樹祭を行っており、当時植栽したサクラは立派に成長していました。今年は天候に恵まれ快晴となり、汗ばむ中での作業となり、苗木にとっても優しくない天候でしたが、先輩のサクラたちに負けないよう立派に成長し、春は花を秋には紅葉を楽しませてくれることを期待します。

巨木ブナの往診ツアーを開催

「北信署」北信森林管理署と「いいやまブナの森倶楽部」とは、相互の連携と協力によりイベントが円滑に実施できるように「イベント実施協定書」(平成二十八年四月、昨年度に続き二回目)を締結しています。

この協定に基づき、当署といいやまブナの森倶楽部が共催するイベント「巨木ブナ(森太郎・鬼ブナ)の往診ツアー」が六月二十二日に開催されました。

当日は天候にも恵まれ、大神楽国有林内に自生するブナの巨木・森太郎(森の巨人たち百選)周辺を探索しました。

参加者は十二名で、四十〜五十代の男女が中心のメンバーで、スタッフのいいやまブナの森倶楽部会長の渡辺隆一先生(信大特任教授)や樹木医の根萩辰也先



巨木ブナの往診



ブナの生態などの説明に聞き入る参加者

生から、ブナの生態などの説明を受けました。

また当署の西村主任森林整備官から、昔、ブナの伐採やブナ林の保護を巡り、国有林と地元で意見の相違があった等の話があり、一般の参加者の方は、興味深く聞かされていました。また牧峠にあるブナ林の壮さや、林内にブナの幼樹があり、参加者は、興味深く観察していました。

最後にスタッフから「冬期のブナ林の探索も楽しいです」と話があり、参加者は、「是非冬期も来てみたい」と話していました。

付知中学校で「山と木のお話」授業を実施

「東濃署」六月二十日、中津川市の付知中学校で、一年生四十八名を対象に「山

と木のお話」と題した授業を五時間目に実施しました。

この授業は、「森林を守り、子どもを育て、地域を創る」をミッションに活動している地元付知町優良材生産研究会（三浦八郎会長）が付知中学校の総合学習の時間を利用して毎年企画しているもので、「木を育てて使うまでの流れ」について、年四回の授業で学ぶことになっており、今回の授業はその第一回目です。

今年で取り組みも四年目となりますが、毎年、同研究会から依頼を受け、東濃署職員が講師を務めています。

授業の前半は、生徒が小学生時代に受講した森林教室を振り返り、森林のはたらきや、その機能を発揮させるために必要な間伐や治山工事、獣害対策の重要性について、加地主任森林整備官が説明しました。

後半は、高塚署長から、木材の利用を推進するために丸太がさまざまな場所に使用されていることや、木の良さ、秒単位で増えている日本の森林資源の現状を、人工林の齢級別面積や自給率のグラフ等で説明し、国産材を積極的に使ってもらうため様々な取り組みを行っていることを紹介しました。

生徒たちはメモをとるなど、熱心に耳を傾け学習していました。今後は、地元の大工さんを講師とした木工教室、加子母裏木曽国有林内「裏木曽古事の森」で



東濃署高塚署長の講義

育林体験授業、木曾ヒノキ備林の見学などが予定されています。

当署としても、次代を担う子供たちに木の良さ、森林の大切さをしっかりと認識してもらうため、今後も引き続き地域の要請に応え、積極的に協力していきたいと考えています。

佐久地区及び上小地域で森林祭 （全国植樹祭県民植樹）を開催

〔東信署〕五月二十八日に佐久地区、六月五日に上小地区において、第六十七回全国植樹祭の県民植樹と兼ねて森林祭が開催されました。

今年で六十八回目を迎える佐久地区森林祭は小海町、佐久地方事務所、東信森林管理署などの主催により、小海町豊里の町総合グラウンドにおいて、一般参加

者、林業関係者など約四〇〇名が参加して、レンゲツツジ、オオヤマザクラなど十六種類の苗木約一、五〇〇本の植樹を行いました。昼食時には緑の山々をバックに、御代田町シニア大学のコカリナグループによる演奏があり、アンコールの声がかかるほどの名演奏でした。



記念標柱設置（佐久地区）一番右奥 東信署松井署長

また、二十八回目を迎える上小地区森林祭は上田市、上小地方事務所、東信森林管理署等の主催により上田市下之郷の市自然運動公園において開催され、地元のみどりの少年団をはじめ、一般参加者、林業関係者など約九〇〇名が参加して、コナラ、クヌギなど五種類の苗木約四、五〇〇本を植樹しました。当日は四つの展示ブースの一つとして、中部森林管理局及び東信森林管理署の取組内容パ

ネルやカラマツ写真展の受賞写真を展示し、PRを行いました。
両会場の森林祭の準備に当たっては、東信森林管理署職員が積極的かつ自主的に協力したこともあり、終了後には実行委員から「本場に助かりました」とお礼の言葉をいただきました。



緑の少年団の風船飛ばし（上小地区）

全国植樹祭上伊那地区 県民植樹祭

〔南信署〕全国植樹祭が六月五日に長野市において開催されましたが、伊那地域においては全国植樹祭の県民植樹として、五月二十二日に松川町「およりの森」で下伊那地区植樹祭が、五月二十八日に岡谷市湊地区において諏訪地区植樹祭が、六月五日に伊那市鳩吹公園におい



コウヤマキを記念植樹
左から二番目 南信署花村署長

て上伊那地区植樹祭がそれぞれ開催されました。

六月五日に全国植樹祭と同時進行で行われた上伊那地区県民植樹祭では、林業関係者や緑の少年団、伊那市と友好協定を結ぶ東京都新宿区の鶴巻小学校生の六三〇名により、昨年から各家庭や学校、南信森林管理署においても育ててきたホームステイ苗を含め、コナラやヤマザクラ等、約一、二〇〇本の植樹が行われるとともに、併せて、広葉樹林内の除伐作業が行われました。

会場の鳩吹公園には大型スクリーンが設置され、長野市エムエーブのメイン会場等と実況中継が結ばれ、最後には各会場において「ふるさと」の合唱が同時に行われ、各会場との一体感の中終了しました。

また、六月十日には、全国植樹祭式典会場で記念植樹された苗木を上伊那地区県民植樹会場となった鳩吹公園に植え替える記念植樹も行われました。

当日は、伊那市長、上伊那地方事務所長、南信森林管理署長、地元の伊那西小学校のほか、森林保全奉仕合宿で伊那市へ来た東京都立葛飾野高校生三五〇名も参加して、地元の樹木であるタカトオコヒガンザクラ、シナノキ、コウヤマキの三本を植樹しました。

五十二年ぶりに長野県で開催された全国植樹祭への思いが、県民植樹が行われたそれぞれの会場でも引き継がれていくと思います。

将来の御柱を育てる

御柱の里山で植樹祭

〔南信署〕六月十九日(日)、南信森林管理署と「木の文化を支える森」の森林整備協定を結び、諏訪大社下社の御柱用材を育てている「御柱の森づくり協議会」の植樹祭が、東俣国有林で行われました。

当日は、地元の下諏訪町の町長や議員、協議会員等の約一〇〇名が参加しました。

植樹に先立ち、六月五日に行われた全国植樹祭のメイン会場でも披露された下諏訪町木遣保存会による木やり「奥山に育て神の木」が行われ、その後、将来の御柱に育ってほしいと願いを込めて十二本のモミの苗木を植樹し、ニホンジカの食害防止の金網ネットも設置しました。

協議会長は、「今年行われた御柱大祭



食害防止の金網ネット設置



木やりの披露

でも、ここ東俣国有林のモミの用材が御柱となった。今日の自分たちの植樹や育樹作業が、百年、二百年先の御柱につながる。」と挨拶されました。

植樹後は、以前に植樹した箇所へ協議会員が分散して食害防止ネットの整備等を行い、未来の御柱の保全に励みました。

今後、御柱用のモミが国有林から将来にわたり持続的に供給できるよう配慮するとともに、地元との繋がりが一層深まるよう取り組みます。

行事・会議等の予定

- ◎費用対効果分析手法検討委員会
8月4日 長野庁
- ◎「山の日」レセプション
8月10日 松本市内
- ◎「山の日」記念行事
8月11日 松本市内及び上高地
- ◎国有林モニタ―現地見学会
8月23日 南木曾支署管内
- ◎愛知県特定鳥獣保護管理検討会
8月23日 名古屋市内
- ◎長野県山林種苗組合総会
8月24日 長野市



「東信署 真田森林事務所」

森林官 森田 直宏

真田森林事務所は、上田市真田町に位置し、約六八七〇鈔の国有林を管轄しています。また、管轄の菅平国有林は上信越高原国立公園に指定されています。

菅平高原は、夏でも冷涼な気候であるため、ラクビーやサッカー、陸上競技



菅平高原遠望



市場化テスト事業地（作業道開設）

等、様々なスポーツが盛んに行われています。また、夏の冷涼な気候を利用した高原野菜の栽培も盛んに行われています。

現在行っている森林事務所の業務の一つに、請負事業の監督業務があります。造林事業では、地拵え、植付の他に除伐、忌避剤塗布など作業は多岐にわたりに行われています。

また、生産事業では平成二十六年

らスタートした市場化テストの事業地が最終年度を迎えます。

現在は、菅平国有林の事業区域で作業道開設を進めています。

さらに、平成二十七年度から始まった生産性向上実現プログラムについては今年度は各現場で実施されています。

各現場では、生産性を向上させるために日報の活用や現場代理人と綿密な打ち合わせなどを実施し、事業の進行管理や問題点、その改善方法の検討などを行っているところです。

立地や立木の条件に生産性が大きく左右されるため直に大きな成果を出すことは難しいと思いますが、改善を積み重ねていくことで少しでもよい結果を出し、今後につなげることができるよう努めていきたいと考えております。

また、生産性、生産量にこだわりすぎて、安全がおろそかにならないように監督業務に励んでいきたいと思えます。

最後に上田市は今、大河ドラマ「真田丸」の影響を受け大変盛り上がりつつあります。

森林事務所周辺にも真田ゆかりの地として「砥石城跡」があります。天文一九年、村上義清の守るこの城を武田信玄が攻めあぐねた末に敗走した戦いは「砥石くずれ」と呼ばれているそうです。

「砥石城」は、当時最強とも言える武田軍を退けるほどの堅牢な山城でしたが、その翌年に真田幸隆は計略によって



砥石城跡

あっさりとは落城させ、以来関ヶ原の合戦までの間、真田氏の重要拠点となったそうです。

上田市にお越しの際は、自然の地形を利用し侵入者を拒んだ山城「砥石城跡」に是非登ってみてください。



岐阜県最北端の険しい山間地に位置し、日本有数の豪雪地帯である白川郷は、茅葺の合掌造りの民家が点在する集



白川郷

ご当地
自慢

秘境・白川郷

39

飛騨森林管理署

落として世界的な知名度があり、美しい日本の雰囲気を醸し出しています。



合掌造

合掌造集落群には築三〇〇年以上の木造でありながら五階建ての民家等、特徴的な家々が立ち並び、重要文化財の指定を受けている建造物もあります。

また、日本三大秘境の一つとして知られ、一九七六年に重要伝統的建造物保存地域、一九九五年にユネスコの世界遺産に登録され、年間一七〇万人（外国人二六万人）の観光客が訪れ賑わいを見せています。

◆和田家

そのなかでも、和田家は白川郷では代表的な合掌造り住宅として主屋、土蔵等が一九九五年に国の重要文化財に指定さ

れています。

築三〇〇年を超え、現在保存されている合掌造りのなかでは最大規模の建築物で、庭や生け垣等周囲の環境の保存状態が良いことでも知られています。



和田家

◆どぶろく祭りの館

天下の奇祭と呼ばれる「どぶろく祭り」は、その名のとおり祭礼にこの年に仕込まれた「どぶろく」がお神酒として奉納され、参拝者等訪れた人々にも振る舞われるのが特徴です。

毎年九月末から十月中旬に、五穀豊

穰・家内安全・里の平和を山の神に祈願し盛大に開催されます。

また、白川八幡神社境内にある「どぶろく祭りの館」では、毎年秋に行われる「どぶろく祭り」の概要や変遷等貴重な資料や遺物が展示されています。



どぶろく祭りの館

アクセス方法

高山市から東海北陸自動車道（高山IC）飛騨清見IC（白川郷ICを降り）からR一五六を経て白川郷（村営せせらぎ公園駐車場）まで。

四五キロ、約四十分